



樋口真嗣監督

映画監督、認定NPO法人アニメ特撮アーカイブ機構副理事長。高校卒業後に「ゴジラ」の怪獣造形に携わることで映画界に入る。「シン・ゴジラ」で監督と特技監督を務め、庵野秀明総監督とともに第40回日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞。

主な監督作品

- 巨神兵東京に現れる(2012年)
- シン・ウルトラマン(2022年)
- 新幹線大爆破(2025年)

田口清隆監督

映画監督、すかがわ特撮塾塾長。自主映画「大怪獣映画G」が認められ、2009年NHKの番組内企画「長髪大怪獣ガハラ」で商業監督デビュー。「すかがわ特撮塾」では、第1期より塾長を務める。

主な監督作品

- ウルトラマンオーブ(2016年)
- ウルトラマンZ(2020年)
- ウルトラマンブレーザー(2023年)

特撮に魅せられて

樋口監督 生まれ育った時期が、怪獣ブーム真っ盛りでした。当時は雑誌で怪獣が取り

上げられ、幼いながらも怪獣の作り方や特撮の仕組みを見ることができました。作り手がいることや、怪獣の中に興味が沸いたのは、この時かもしれません。しかし、最近の特撮業界は、怪獣の中には

開館5周年を記念して、樋口真嗣監督と田口清隆監督のトークショーを行い、島崎淳さんを司会に迎え、特撮や須賀川特撮アーカイブセンターへの思いを語っていました。その一部をご紹介します。

特撮アーカイブセンター開館までの思いは?

樋口監督 「新幹線大爆破」のミニチュアを制作して使用しました。民家ミニチュアの爆発も撮影しています。

田口監督 昼間準備して夜に撮影する、それもいい形ですね。

樋口監督 そう。やっぱり前はみんな特撮を東京で撮っていたんですが、東京はオーペン(屋外)で撮れる場所がないつたり、掛かる費用も高額にな

方といつた特撮の舞台裏を表に出さなくなってしまいました。舞台裏を隠してしまうことでも、元々特撮を作る側の面白さに惹かれてこの世界に飛び込んだ自分のような人間が、今後いなくなってしまうのではないかという危惧があります。だから、特撮アーカイブセンターを通して「特撮には作る側の人間がいるんだ」ということを子どもたちに知つてもらいたいな、という思いで設立に関わっています。



島崎 淳さん

特撮ライター、メイキングディレクター、すかがわ特撮塾常任講師。「温泉シャーク」では特撮コーディネーターとして須賀川市での撮影を誘致。「すかがわ特撮塾」では第1期から常任講師を務める。

携わった主な作品

- 巨神兵東京に現れる(2012年)
- ウルトラマンX(2015年)
- ウルトラマンオーブ(2016年)

トークショーでは、司会として活躍

一センター開館5周年を迎えていかがですか?

田口監督 とにかくミニチュアや特撮が好きな人間として、特撮アーカイブセンターがなければ捨てられていたかもしれない物が、いつでも見られる状態にあるのは有り難いことだと思っています。その恩返しの気持ちも込めて、すかがわ特撮塾を一生懸命やらせてもらっています。まずは、須賀川の子どもたちに特撮の面白さを知つてもらいたいです。必ずしもそれを仕事にし、特撮を通してみんなで多くの苦手の克服につながつたり、子どもたちの成長に貢献できるといなと思つています。

田口監督 それが今ながらラボって呼ばれている場所で、敷地の一部を舗装するなど須賀川市が誰でも使いやすく整備してくださったので撮影も快適で。駐車場がオープンスペースとして使用でき、A棟という天井高いログハウス調の小屋で撮影の準備



■須賀川特撮アーカイブセンター5周年・すかがわ特撮塾

5年の歩み、特撮文化を後世へ

須賀川特撮アーカイブセンター(94)5200

須賀川特撮アーカイブセンターは、令和2年11月3日に開館し、令和7年で開館5周年を迎えました。特撮文化を顕彰・推進し、後世に伝えるための取り組みや、すかがわ特撮塾の活動など5年の歩みを紹介します。

特撮は「特殊撮影」の略称で、元々は撮影技術を指す言葉でした。しかし、ウルトラマンやスーパー戦隊、仮面ライダーなどのコンテンツが人気を集めつつ、特撮は作品ジャンルを指す言葉として定着しました。

セントーでは、特撮作品を制作するときに必要な道具や、着ぐるみ、ミニチュア、設計図など「特撮資料」を収蔵しています。特撮資料を保存し、調査・研究を進めることで、特撮作品を制作するための高度な撮影技術やものづくりの職人技、当時の制作状況や裏事情などを後世に残すことができます。こうした技術や知識は、特撮以外の分野でも活用できる可能性があることから、特撮資料を公開することでも活用できる可能性があり、特撮資料を世界に誇れる文化として、多くの皆さんにその魅力を知ってもらうことができま

す。今後も、特撮資料の新たな活用方法を探ることで「特撮」を世界に誇れる文化として、守り続けていきます。

今後も、特撮資料の新たな活用方法を探ることで「特撮」を世界に誇れる文化として、多くの皆さんにその魅力を知ってもらうことができます。今後も、特撮資料の新たな活用方法を探ることで「特撮」を世界に誇れる文化として、守り続けていきます。

特撮文化の広がり



オリジナル シルエット怪獣スカкиング
センターバー側の外壁で会えます!

必殺技 口からキュウリを丸ごと1本発射し、敵を倒す!
弱点 眠くなりやすくて、そのときに攻撃されるとダメージを負う
特徴 2つの角で困っている人などを見付ける力があり、いつでも助けに来てくれる。キュウリが大好物で、いつか「きうり天王祭」に参加したいと思っている

特撮資料の重要性と保存

令和2年	開館
令和3年	来館者数3万人突破
令和4年	円谷英二ミュージアム連携事業トーキベント「特撮映像制作の現場から」開催
令和5年	すかがわ特撮塾第1期初開講 飛行メカの名前が「スカイツツセ」に決定
令和6年	すかがわ特撮塾第2期開講 来館者数5万人突破
令和7年	来館者数13万人突破

センターの歩み

11月	来館者数3万人突破
令和2年	開館
令和3年	円谷英二ミュージアム連携事業トーキベント「特撮映像制作の現場から」開催
令和4年	すかがわ特撮塾第1期初開講 飛行メカの名前が「スカイツツセ」に決定
令和5年	すかがわ特撮塾第2期開講 来館者数5万人突破
令和6年	来館者数13万人突破
令和7年	来館者数13万人突破